

採血に伴う合併症について

🌸 当院での血液検査は、ホルモン値の測定・感染症の有無・病状把握を行うために必要な医療行為です。



🌸 基本的に安全性の高い手技ですが、まれに合併症が起こることがあります。

🌸 患者様には、血液検査の必要・危険性を十分にご理解していただいた上で検査を受けて頂くようお願いいたします。

1) アレルギー

採血の際に使用する消毒液や紙テープなどでかぶれや発疹などのアレルギー症状が出る場合があります。過去にアレルギー症状がみられた方や今後症状が出た方はスタッフにお申し出ください。

2) 止血困難・皮下出血

採血時に血が止まりにくいことや、皮下出血（青あざ）ができてしまう場合があります。採血後の止血が不十分であることが主な原因です。採血した部位はもまずに5分以上十分に止血してください。内出血は通常数日で自然吸収され、心配はいりません。

3) 神経損傷

採血や注射後、手指へ広がるような痛みが残ったり、しびれが持続することがあります。肘や手首の近くには比較的太い神経が走っている場合があります、採血時は最大限の注意をしながら実施しています。しかし神経の走行には個人差が大きいために、ごく稀に神経に触れてしまう場合があります。通常の採血行為では太い神経を損傷させる可能性が低いため、大部分は3か月以内に改善しますが、稀に半年以上、もしくは永続的に続くことがあります。

以上の理由からも、肘部の採血が難しく、前腕や手の甲で採血を行った方が安全だと判断する場合がございます。

4) 血管迷走神経反射

神経が興奮し急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こすことがあります。心理的に緊張や不安が強いと起こりやすいとされています。過去の採血で、これらの症状を経験したことのある方は事前にスタッフにお申し出ください。